

第三者所見

＜環境行動の構成＞

この環境行動レポートは、次の一步を予感させるようなレポートだと思います。環境対策が進む方向が理解しやすい構成になっています。戦後以降、石炭から火力発電が主力になりましたが、オイルショック以降は環境行動の一環として、発電方式の多様化を進め、そして、再生可能エネルギーの導入が徐々に進み、発電から送配電の技術や設備の効率化、そして、使用段階の無駄を削減するために、生活者のエネルギー機器の使い方について提案するなど、環境行動の幅が広がっています。

地球環境問題がますます国の重要課題になりつつある中で、国のエネルギー政策の要諦は、安全性を前提としたエネルギーの安定供給を第一とし、経済効率性の向上による低コストでのエネルギー供給を実現し、同時に、環境への適合を図ることとなっています。東北電力グループの環境行動はそれに基づいて進んでいると思います。



東北大学大学院環境科学研究科
准教授 古川柳蔵

＜新しい価値観の必要性＞

次の10年でどのような環境行動に注力するかが重要だと思います。現在、経済性を維持しながら、環境行動を進めるという難しい問題に挑戦されています。太陽光発電設備から電力購入を促進する固定価格買取制度に関しては、既に、太陽光発電設備の連系確定分が持続可能量を越えようとしているように、益々厳しくなる地球環境制約下においては、エネルギーをふんだんに使う今の暮らしを維持するのは困難であり、これまでのエネルギー需給のあり方に限界を感じます。これは電力業界だけではなく、日本社会全体がまさに新しいステージに向かおうとしていることを示しています。削減や我慢の対策だけでは豊かな暮らしは実現しません。私たちは、持続可能な社会の実現のために、「制約なき豊かさ」から「制約があるからこそ得られる新しい豊かさ」へ価値観の転換をする必要があります。これは、すぐに明日からできることではありません。時間をかけて、それでも急いで、生活者一人一人が暮らし方を見直さなければなりません。東北電力グループの環境行動にある「海岸防災林復活活動」の植林のように、未来に必要とされることを、今から行動を開始しなければなりません。将来益々必要とされる新しい価値観を、今の若い人々や生活者に芽生えるような環境行動をする必要があります。この価値転換こそが、経済性を維持しながら、環境行動を進めるための基盤となるからです。

＜次の10年への期待＞

では、どのような環境行動が求められているのでしょうか。デマンドレスポンスなど、生活者のエネルギー利用方法が少し変われば、電力会社も生活者もメリットを生み出せる余地があることも示されました。次はエネルギーと生活者が歩み寄り、そして、生活者がエネルギーとうまく付き合い、その結果、コミュニティの中に新しい豊かさを生み出す暮らしを思い描くことだと思います。生活者一人一人が今の暮らし方をじっくりと見直すための環境行動が求められています。まさに、ライフスタイル変革を起こす第一歩こそが、東北電力グループの次の10年に期待されています。

TOPICS

東北大学大学院環境科学研究科の皆さまとの意見交換会

当社環境部は、CSRにおける環境経営の位置づけと東北電力の環境への取り組みについて、東北大学大学院環境科学研究科（吉岡敏明研究科長）においてお話をする機会をいただきました。その際、環境への取り組みの一層の推進や改善に結びつけていくことを目的に、学生の皆さまとの意見交換会を実施しました。

1. 実施日 2015年8月6日
2. ご参加いただいた東北大学の皆さま
東北大学大学院環境科学研究科 大学院生7名
3. 学生の皆さまからいただいたご感想やご意見
 - ・東北電力が地域のことを考え工夫しており、思っていたより地域に近い存在だと感じた。
 - ・これまで、東北電力の環境行動レポートやCSRレポートを見たことがなかったので、もっとPRをした方が良いのではないかと。
4. ご感想・ご意見を受けて
今後も、社内外のステークホルダーの皆さまの声に耳を傾け、分かりやすい情報発信のあり方や、環境への取り組みの推進に努めてまいります。



意見交換会を行い、貴重なご意見、ご感想をいただきました